

認知症の人と子どもたちが 楽しく過ごすためには

所属：有限会社ウェルフェア

氏名：田邊 恒一（千葉県・27期）

作成日：令和元年12月26日

※写真の使用については、本人に同意を得た上で
利用している。

本報告の趣旨

- 報告者である田邊恒一は、千葉県習志野市秋津地域にて施設内に保育所が併設している介護施設を運営している。
- 子どもたちと認知症高齢者が一緒に楽しく過ごすことが、双方に良い影響を与えていると日々の実践から強く感じているところである。
- 本報告では、実際の生活の様子、保育所立ち上げの経緯、子どもと活動する際の留意点・工夫について説明する。

習志野市について

人口：173,810人

65歳以上人口：40,303人

高齢化率：23.2%

(令和元年10月現在)

面積：20.97km²

地理的特徴：千葉県の北西部に位置し、東京からほぼ30キロ圏内にある。文教住宅都市であり、東京のベットタウンとして発展。

自慢：

習志野高校野球部・吹奏楽部

(春のセンバツ2019準優勝、美爆音)

谷津干潟

(ラムサール条約登録地、渡り鳥の飛来地)



習志野市HPより抜粋



都会のオアシス、谷津干潟
豊かな自然環境、谷津干潟
環境センターは、環境を保全する水鳥たちが集まる豊かな自然を
楽しむための拠点です。

習志野市について

日常生活圏域 : 5 圏域
 地域包括支援センター : 5ヶ所
 認知症地域支援推進員 : 5名

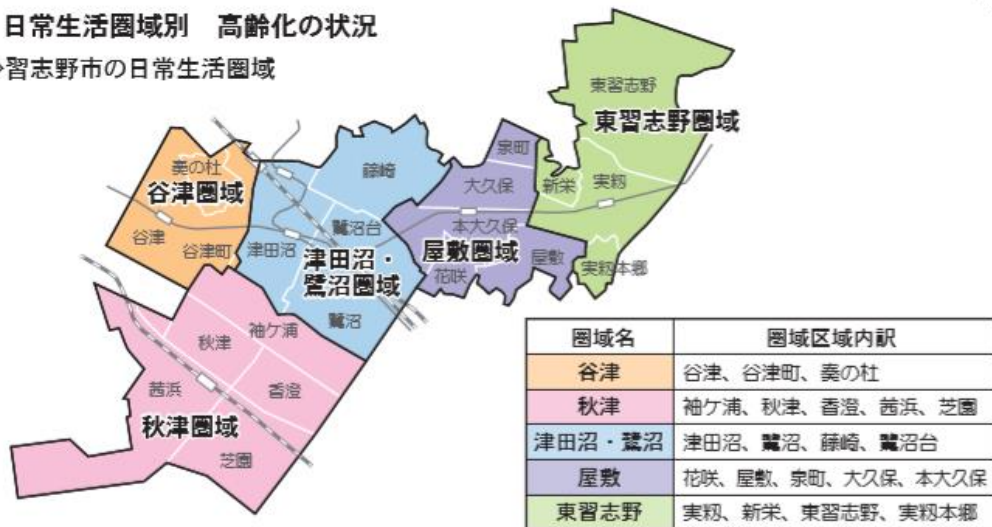
・市全体として、少子化・高齢化が進行する見込み。

・総人口は減少傾向にあり、いずれの圏域でも前期高齢者人口の減少と後期高齢者人口の増加が見込まれることから、市全体で、介護や支援のニーズが増大することが見込まれる。

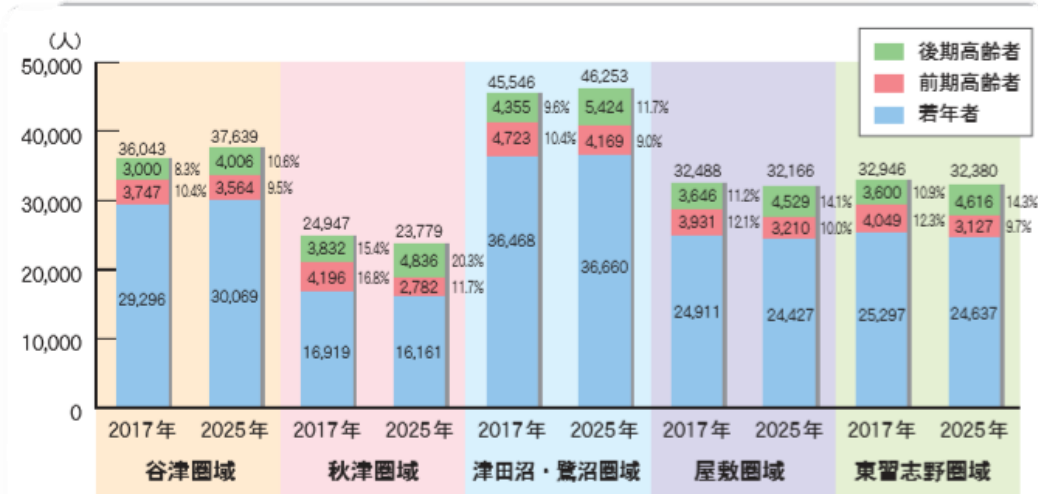
・とりわけ当事業所のある秋津圏域の高齢化が著しく、高齢化率としては2025年には低下傾向にあるものの、人口構造の偏りから、後期高齢者の占める比率が突出して高くなっている。

② 日常生活圏域別 高齢化の状況

◇習志野市の日常生活圏域



◇2025年の各日常生活圏域の高齢化の状況（推計）



事業所紹介

認知症対応型共同生活介護



グループホーム秋津

開設日 : 平成15年5月1日
建物概要 : 木造2階建 (民家改築)
定員 : 9名 (1ユニット)

わたしたちの理念

「楽しい」と感じることをできる
暮らしを目指します。



グループホーム谷津苑

開設日 : 平成16年6月1日
建物概要 : 鉄骨造2階建 (社員寮改築)
1階 (デイ、保育所)
2階 (グループホーム)
定員 : 9名 (1ユニット)
併設事業所 : 居宅介護支援事業所
(ケアプラン秋津)
訪問介護事業所
(ウェルフェアヘルパーステーション)

事業所紹介

認知症対応型通所介護 デイサービスセンター 秋津



開設日 : 平成16年7月1日
定員 : 12名

認可小規模保育事業所 ロゼッタ保育園



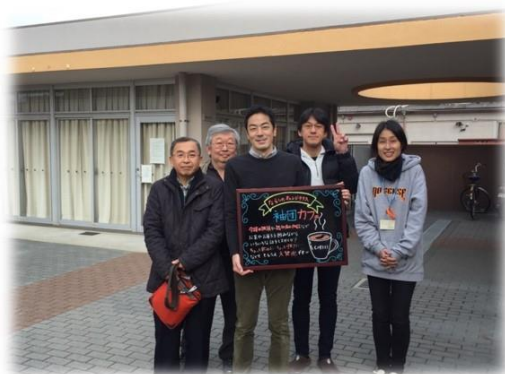
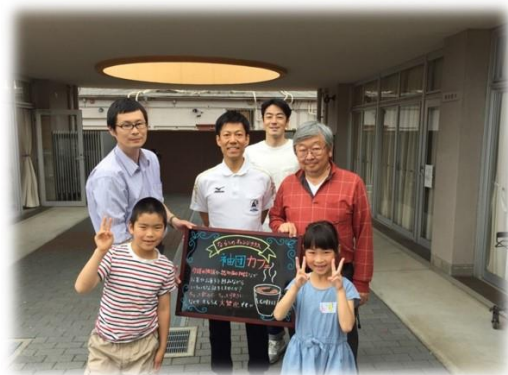
開設日 : 平成22年3月1日
※令和元年10月1日認可へ移行
定員 : 18名

事業所紹介

認知症カフェ



袖団カフェ
開催日：毎月第3日曜日



おやこカフェ



袖団おやこカフェ
開催日：不定期開催



生活の様子

冷たいあんよをあつためてあげる



サンタになった若年性認知症高齢者



グループホームでのひとコマ



髪を結ってもらってます



おじいちゃんをつかまえてごらん



デイと保育園のクリスマス会



お昼寝中にプレゼント



生活の様子

合同運動会での表彰式



おばあちゃんのひざの上で一安心



七五三のご挨拶



新入園児を見に来ました



これからみんなで花火です 愛しい感情が溢れます



なぜ保育所を設置しようと思ったのか

- 保育ルームの設置は当初、「職員確保」が目的。介護業界全体が職員確保に苦戦している中、「介護の仕事に興味があるけれど、子どもがいるから働けない。」との声を聞き、子どもを預かる場所があれば、潜在的な介護人材を確保することができるのではと考え、事業所内保育所の開設に踏み切った。保育ルームを設置したことで子どもを抱えながらも働きたいという女性のニーズに対応できるようになった。
- 認知症の高齢者と子どもが日々関わることで双方に良い影響が出るのではないかと考えた。



子どもと活動する際の留意点・工夫

- 子どもたちと認知症の人がコミュニケーションを図ることで一緒に楽しく過ごせるよう、スタッフが配慮することが大切。そのためには、スタッフが認知症や高齢者の特性を理解しておくことが重要と考え、全スタッフに認知症サポーター養成講座を受講してもらっている。
- 活動する際には、感染症等がまん延しないよう事前に健康チェックをする等、子どもたちと高齢者の体調に留意することが大切。
- 子どもとの活動がスタッフ側の押しつけにならぬよう、スタッフも一緒に楽しむという姿勢が大事。



成果

- 認知症高齢者が子どもたちと関わることで、日々の生活での笑顔が増えたように感じる。認知症が進行しても「子どもが愛しい、可愛い。」という感情は残っており、そのことが認知症になっても楽しい生活を送るための要因のひとつであることを改めて理解できた。
- 生活の中で高齢者と関わる機会が少ない子どもたちにとっても、保育所での高齢者との関わりは貴重な機会である。

展望

- 介護、保育スタッフがお互いの活動を理解しあうことで、子どもと高齢者がもっと自然な関わりができるような場所作りをしていきたい。
- この取り組みを事業所内のみならず、地域へと広げていきたい。その上でも行政や地域の人たちとの連携を深めていきたいと考える。

